

【質疑応答】（敬称略）

質問者 1：現状の施設変更に係る文化庁との関係。

講師 1：国まで話を持って行くと時間がかかり過ぎる。原則、市の許可で全て終わるように県と調整しながら行っています。

講師 2：姫路城のように公共の建物ではなく、持ち主は清水寺です。文化財保護の観点から厳しい規制があるのは事実ですが、その中で関係機関と相談を重ねながら、お参りに来られる方の事を最優先に行っています。

質問者 2：バリアフリー化に対する基本的な考えを教えてください。（人集めの為に行っているのではないか。）

講師 2：お寺という性格上、年配の方が多く、最初は年配の方を対象にスロープを付けはじめました。大前提として、お参りしたいと思った方が、「清水寺は段が多くてしんどいので行きたくないな」と思うことのないようなレベルにはしておきたい。出来るだけたくさんの人にお参りに来てほしいと考えています。

講師 1：登閣が困難な人の見学機会の確保や関心の少ない市民の誘導を図るという基本方針のもと、広く姫路城を見て頂きたいと考えてバリアフリー化を進めています。

質問者 3：少し前に調査の為に清水寺に行きました。バリアフリー化が進んでおり、どのような方も移動しやすくなっていましたが、その中に波形手すりがありました。障がい者、高齢者への調査から、実は波形手すりは使いにくく困っている人が多いと結果が出ていますがご存じでしょうか。是非お知らせしたい。

講師 2：少しでも使いやすいものにしたと考え波形手すりを導入しました。このような機会にいろいろな意見をお教え下さい。より良いものへ変えて行きたいと考えています。

質問者 4：どのような情報発信のツールが効果があるのか。例えばネット予約に関しどの位の利用があったのか。また、他のツールがどのような効果があったのか。

講師 1：「天空の白鷺」開催中の来場者が約 160 万人でそのうち約 50 万人が予約（内訳：電話予約が 2 / 3、ネット予約が 1 / 3）、約半数の 80 万人はインターネットを見てから来場。今現在は、インターネットで姫路城大入り実況を展開し待ち時間等をお知らせしています。効果は 5 人に 1 人位が見てから来場されています。

講師 2：あまり出来ていない。予約は必要ありません。情報発信はもう少し必要だと考えています。

質問者 5：姫路城へ訪問する場合、車いすでどこまで行けますか。

講師 1：残念なことに、改修の間だけという条件でスロープを付けたので改修後に撤去しています。備前丸（姫路城前の広場）まで行くことが可能ですが介助サポートの方がが必要です。建物内は、現実的に難しい状況です。

講師 2：清水寺では、一番上まで行けます。ただし、本堂等、いくつかの場所は段があ

り介助サポートの方が必要です。お一人で参拝することは難しい状況です。

質問者 6：今後、オリンピック、パラリンピックに向けて海外から障がい者の方もたくさん来られるようになると思います。海外から来られる方の中にはハンドル形車いすを利用している方が多くいます。まだ、日本では利用者が少なく、現在は新幹線に乗車出来ない状況にあります。これからの課題として最終目的地まで単独で行くことの出来るという情報の提供が必要になってくるのではないかと、コーディネーター：「今後バリアフリーチェックをされる際には、ハンドル形車いすもチェックして頂きたい」と、講師のお二人に理解を求めました。

以上